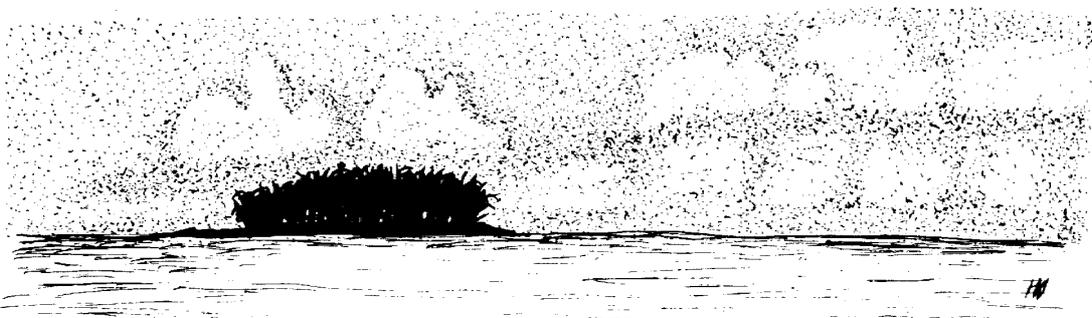


随想



バヌアツのリニ首相

五島 昇

去る四月、ESCAP総会の開会式出席を兼ねて来日されたバヌアツ共和国のリニ首相と、一夕、会食する機会を得た。リニさんは、ポートビラとサントの空港を拡張する計画があり、それが完成したら、より多くの日本人観光客に来てもらいたいこと。また、観光関係以外でも日本からの投資を大いに望んでいることなど、熱心に語っておられた。

バヌアツは、一九八一年二月にはフランス大使を国外退去させたり、その翌年二月には、米艦二隻の親善訪問を拒否しただけでなく、領海航行さえ拒否するという、独立早々の小国とは思えない強硬な外交策をとったが、リニさん自身のパーソナリティーは、極めて穏やかでチャーミングである。

ところで、ことしの二月、バヌアツではソコマヌ大統領が突然辞任し、二十日後には再び同氏が大統領に選出されたが、辞任の理由は自動車税の滞納といわれ、いささか奇異な感じを持ったものである。そこで、その真相について、直接、リニさんに聞いてみたら、次のような説明があった。

「バヌアツの憲法は、大統領にも首相にも特別な保護を与えていません。ソコマヌ氏は自動車税を期日までに納めなかったので、裁

判所から罰金を課せられました。ソコマヌ氏は、期日までに納税しなかったのは大統領として相応しくなかったと考えて辞任し、国会と地方政府代表団は、やはり彼は大統領として相応しいと、補選で彼を選出した。ただ、それだけです」。

法の下に、当然のことが当然に行われたという淡々たる説明で、思わず感心した。

さて、日本には中丸さんという姓も中丸という地名もあるが、バヌアツでは村の集会場をナカマル(Nakamal)という。バヌアツは、自然の美しさと人情のすばらしさで、観光客の心を惹きつけるが、私にとっては、それ以上に、何となく親近感をそえられる国である。

プエルト・リコと日本

— その距離の逆転現象 —

長嶋 俊介

カリブ海の大アンチル列島東端に、プエルト・リコの主都サンファンがある。そこは西経約66°、ちょうど日本の高松や岡山の正反対の経度にある。一五八五年にスペインにより築かれた城砦、エルモロに行った時、日本との意外な距離を知らされた。

車両の片側をオーブンにしたアイスクリーム屋があった。カリブ海一帯のそれは、天然果汁をふんだんに用いており、大変な美味で

ある。その親爺、思惑ありげに、あなた方はどこから来たかという。

スペイン風の旧都オールド・サンファンを歩いていた時には、「その中国人」などと言われて、いかにも異国気分だったので、まともに答える気分にはなっていなかったが、日本と答える。すると日本のどこかとさらに聞く。私は横田、博多、京都を知っていると言う。しかも任んでいたとまで言う。

氷水屋の親爺が？ キツネにつままれた思いでその人なつっこい顔を見る。インテリでも、タレントでも、元大金持ちでもなさそうだ。

普通のプエルト・リコ人（ウエストサイド物語の登場人物達・その郷里にある彼ら）を、太平洋を越えはるばる極東にまで運び連れ出したのは、何と戦争（朝鮮戦争）であった。異常事態は、人を兵として大変な地の果て、海の果ての遠方まで連れ出してしまふ。

ジャマイカがJAPANと名前を通じた隣国なら、プエルト・リコは米国を通じた隣の島である。隣接島嶼の旧植民地らしい、くすんだ風情は少ない。インフラの充実ぶりにも、便利で安く品揃い豊かなスーパーにも、観光施設にも、米国のコモンウェルスらしい賑いが満ちている。まさに米国の延長でもある。ダイハツ、ダットサン等の看板も目立った。日本車はまずこのプエルト・リコに来て、他の小さな島々に配送される。

しかし経済力が費用距離を逆転してしまう

不思議な現象が、このカリブにはある。英領モンセラット（仏領グアドループやアンティグア島の隣島）までの距離は300kmにも満たないのに、反対経度の距離は日本の方が、雑貨なら当たり約80\$も安い。車でも同20\$安い。八丈島のむこうにニューヨークが見える

掲示板

南洋群島協会が移転

去る4月1日、財団法人南洋群島協会が左記に移転しました。

〒112 東京都文京区小石川2-23-14

電話・03-81818-3967

新事務所は、都営地下鉄「春日」または営団地下鉄「後楽園」から徒歩数分で、源覚寺（こんにやくえんま）の境内にあります。

古田武彦氏 昭和薬科大教授に

古田武彦氏は、去る四月、昭和薬科大学の教授に就任され、ご住所も東京に移されました。新住所は左記です。

〒113 東京都文京区本郷2-17-5-1010

電話・03-81818-4066

映像が、カリブからは富士が見える光景になる。

一方日本から見たカリブは、ポリネシアやインディオ遺跡よりも、さらに遠い所にある。不思議な、不思議な距離の逆転現象である。

コアラプレス友の会が発足

海野士郎さんと星野和謙さんが、私費を投じて出し続けて来られたコアラプレス（太平洋学会誌第22号P.7参照）に、友の会が誕生しました。購読会員は年間二千元、賛助会員は年間一万元以上の寄付をすることになっています。

ポナペがポーンペイになる

ミクロネシア連邦（FSM）の首都があるポナペでは、本年七月二日、州憲法案に対する住民投票が行われますが、この草案ではポナペという地名が、本来の呼び方であるポーンペイ（Pohnpei）に改められていますから、この憲法が成立すると、少なくとも、FSM内ではポナペという呼称は消えることとなります。

△太平洋学会事務局▽